

防災教育への見方が変わる!? 前向きになれる研修会

申込方法 ※2018年1月31日(水)締切

電話・FAX・メールのいずれかにて、

①所属 ②職名 ③氏名をお知らせの上、下記申込先へお申込みください。

申込先

公益社団法人 中越防災安全推進機構 (担当: 松井・川上)

〒940-0062 新潟県長岡市大手通 2-6 フェニックス大手イースト 2F

電話: 0258-39-5525 / FAX: 0258-39-5526

E-mail: bousairyoku@cosss.jp

平成 29 年度 新潟県防災教育研修会 申込書

所 属	職 名	氏 名

交通案内



新潟交通バス

★新潟駅万代口バスターミナル発

「B1 萬代橋ライン (BRT)」乗車「市役所前」下車、

「C1 県庁線」に乗換、「県庁」バスターミナル下車

★JR 新潟駅南口バスターミナル発

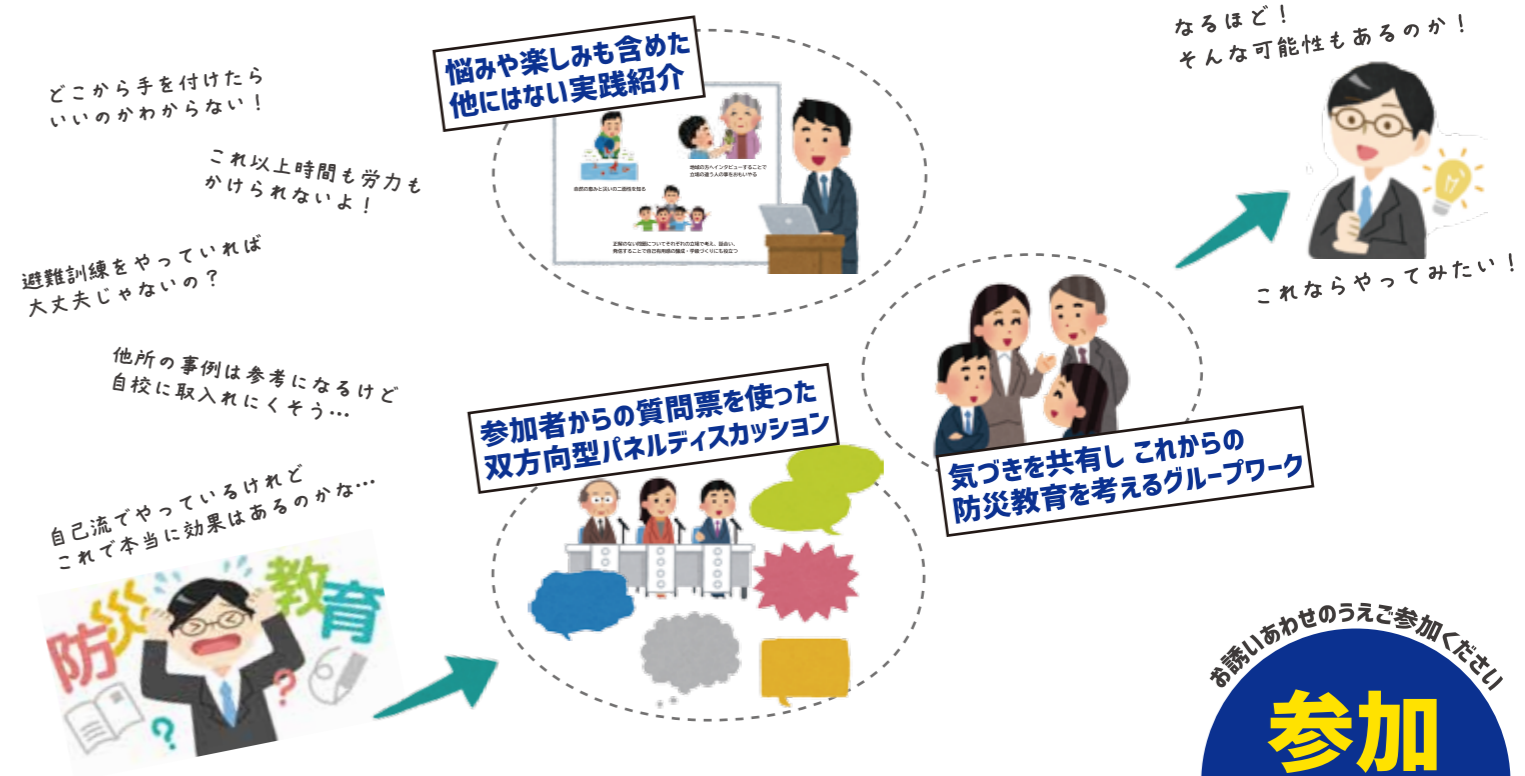
「C1 県庁線 (りゅうとリンク)」乗車、「県庁」バスターミナル下車

【紹介】防災教育の効果を明らかにする研究会



公益社団法人中越防災安全推進機構では、ふるさと新潟防災教育推進事業(新潟県中越大地震復興基金事業)の一環として、平成 28 年度より本研修会でご登壇いただく実践者及び研究者の方々と一緒に、「防災教育の効果を明らかにする研究会」を設置し、今日まで定期的に議論してきました。

本研修会は、この研究会の成果を学校教育現場に還元・反映させることをねらいとして企画しております。



これからの防災教育を考える 防災教育の実践から得られる様々な効果に着目して

参加無料

近年、自然災害が多発するなかで、子どもたちの命を守るための取組が重要な課題となっています。特に平成 23 年 3 月に発生した東日本大震災では、多くの子どもたちが犠牲になった経験から、子どもたちに自然災害などの危険から自らの命を守り抜くための主体的な意識と行動を根付かせることが強く求められています。

新潟県においても、これらの状況を踏まえ、新潟県防災教育プログラムに基づき、各学校で様々な防災教育の実践が行われています。

本研修会は、実践から得られる防災教育の多様な効果に着目しながら、参加者がそれぞれの立場からこれからの活動について考えることにより、防災教育の一層の充実・発展に資することを目的に開催します。

平成 30 年 2 月 6 日 (火) 14:00 ~ 16:45
会場: 新潟県自治会館 講堂 (新潟市中央区新光町 4 番地 1)

対象: 小学校・中学校・中等教育学校・特別支援学校の校長・教頭・教職員
地域教育コーディネーター、市町村教育委員会職員、防災士、
防災教育コーディネーター養成塾修了生 等

※研修内容と申込方法については中面と裏面をご参照ください。

主催: 公益社団法人 中越防災安全推進機構 共催: 新潟県教育委員会 後援: 新潟市教育委員会

研修内容

13:30 ~ 受付

14:00 ~ 開会・趣旨説明

14:15 ~ 実践紹介「歩みと気づき」

県内で防災教育を実践してきた3人の先生から、これまでの活動の歩みを振り返っていただき、防災教育を通してどのようなご自身の心境の変化があったか、児童生徒にどのような変化や成長が見られたか、同僚・学校・地域がどのように変わっていったのかをご紹介します。

実践紹介者

魚沼市立湯之谷中学校 校長 五十嵐 一浩 様

上越市立黒田小学校 校長 宮川 高広 様

新潟大学教育学部附属長岡小学校 副校長 松井 謙太 様

参加者による質問票の記入

15:00 ~ 休憩

15:15 ~ パネルディスカッション「防災教育の様々な効果と可能性」

実践紹介の発表内容に基づき、研究者の方々から「大切な視点は何か」をコメントしていただきます。さらに会場の参加者から記入していただいた質問票にお答えしながら防災教育の効果と可能性について議論を深めていきます。

コーディネーター

群馬大学大学院理工学府環境創生部門 准教授 金井 昌信 様

パネリスト

東北大学災害科学国際研究所情報管理・社会連携部門 助教 定池 祐季 様

長岡技術科学大学環境社会基盤工学専攻 准教授 松田 曜子 様

実践紹介の3名様

16:00 ~ グループワーク「これからの防災教育を考える」

実践紹介・パネルディスカッションから得た気づきを参加者同士で共有し参加者それぞれの立場でこれからの防災教育について考えます。

16:40 ~ 閉会（16:45 終了予定）

★本研修会は、「自然災害から子どもたちの命を守る」という防災教育の一義的な目的を踏まえつつ、それだけにとどまらない「防災教育だからこそその効果や可能性」の実態について共有・共感することにより、防災教育を通じて子どもたちの生きる力を育む教育活動が推進・定着・継続していくことを目的としています。

登壇者紹介



五十嵐 一浩（いがらし かずひろ） 魚沼市立湯之谷中学校 校長

新潟県見附市出身。中学校社会科教員として、地域学習の実践に取り組み 2005 年渡辺教育賞を受賞。その後 2007 年長岡市立太田中学校での実践で、毎日新聞社主催ぼうさい甲子園で大賞・防災未来賞を受賞する。2009 年には地域貢献学習が認められ辰野千壽教育賞を受賞した。2012 年より三条市立第四中学校で新潟県防災教育プログラム洪水編作成に携わる。著書に『中越地震に負けない太田っ子』（新潟日報社）他がある。日本社会科教育学会会員。



宮川 高広（みやがわ たかひろ） 上越市立黒田小学校 校長

糸魚川市立根知小学校の教頭として 2011 から防災教育を推進し、防災教育チャレンジプラン 2011 防災教育特別賞受賞、防災教育チャレンジプラン 2012 防災大賞受賞、2012 ぼうさい甲子園小学校の部奨励賞受賞、2013 ぼうさい甲子園小学校の部ぼうさい大賞受賞。2011 年 6 月から東日本大震災及び県内の被災地復興ボランティア（新潟恩返し隊等）の活動に計 13 回参加。防災士。NPO 法人ふるさと未来創造堂理事。



松井 謙太（まつい けんた） 新潟大学教育学部附属長岡小学校 副校長

1985 年新潟大学教育学部卒。見附市教育委員会学校教育課長を経て 2016 年 4 月より現職。中越地震と中越沖地震で勤務校が被災し、学校再開や復興にあたった経験を、2009 年日本スポーツ振興センター-学校安全研究大会などで報告。2010 年、2012 年、2017 年文科省学校安全教育資料等作成協力者会議委員。



金井 昌信（かない まさのぶ） 群馬大学大学院理工学府 准教授

群馬県桐生市出身。2004 年 3 月群馬大学 大学院工学研究科 博士後期課程修了、博士（工学）を取得。2004 年 5 月群馬大学工学部助手。2012 年 7 月群馬大学大学院工学研究科准教授。2013 年 4 月群馬大学理工学研究院准教授。2014 年 4 月より現職。専門は災害社会工学。住民の災害情報理解特性や避難行動特性に関する調査研究を行うとともに、その知見を生かし、地域住民とともに、住民主体の避難計画を策定する取組を全国各地で支援したり、小中学校における防災教育に関する実践的な研究活動を行っている。



定池 祐季（さだいけ ゆき） 東北大学災害科学国際研究所 助教

北海道大学大学院文学研究科博士後期課程修了、博士（文学）。専門は災害社会学、地域社会学、防災教育。北海道南西沖地震を奥尻島で経験したことをきっかけに災害研究を志した。被災地で家族を喪う悲しみに触れ、命を守るための防災教育の必要性を痛感。研究の傍ら、各地で防災教育活動を展開している。



松田 曜子（まつだ ようこ） 長岡技術科学大学環境社会基盤工学専攻 准教授

2007 年京都大学大学院工学研究科都市社会工学専攻博士後期課程修了。博士（工学）。同年、学位論文のフィールドであった NPO 法人レスキューストックヤードに入職、その後同法人事務局長、2012 年より関西学院大学災害復興制度研究所・特任准教授を経て 2016 年より現職。2011 年の東日本大震災発生後には ROAD 事務局として足湯ボランティアのコーディネートに関わった。現在は市民参加型の防災まちづくり、広域避難者支援、災害復興、防災に関する市民活動等に関する研究に従事。震災がつなぐ全国ネットワーク共同代表も務める。